

【シンポジウム】

【緊急企画】 渋谷教授のケースメソッド授業 ーコロナ禍への対応に苦慮する病院のケースー

【ケースリーダー】

渋谷明隆 先生（学校法人北里研究所 常任理事、北里大学客員教授）

〔企画の趣旨〕

昨年来、日本全体がコロナ禍に翻弄され、日本の医療提供体制はパンデミックへの脆弱性を露呈している。その大きな要因のひとつに官民ともにマネジメント不在が指摘されている。今もなお、多くの医療者や医療管理に携わる方々が、苦境の中で新型コロナウイルス感染患者の診療に対峙しており、さらにコロナ患者を診療しない医療・介護施設においても発熱患者への対応、感染予防など今までにない対応を強いられている。

一方、修羅場はそれを潜り抜けた時に大きな成長の機会を与えてくれる。この企画では、ビジネススクールで用いられるケースメソッドを用いて、コロナ禍という危機的状況によりあぶり出された病院の経営・管理の問題点や失敗からの学び、課題解決の議論を通じて、次の変革に立ち向かう実践知としたい。修羅場体験がリーダーを育てると言われるが、「のど元過ぎれば熱さを忘れる」前に、新型コロナウイルス感染患者の診療に関わっていない医療者も含めて、医師、看護師、検査技師、薬剤師、事務職など各職種の方々の参加を得て、医療の変革に向けた学びの共同体を形成したい。